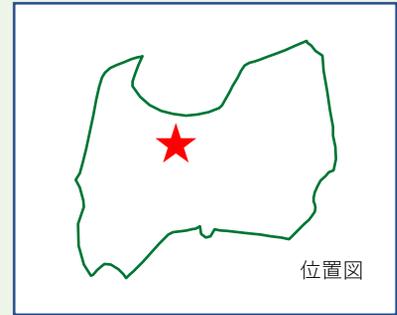


呉羽梨産地活性化委員会（富山県富山市、射水市（呉羽梨栽培地域））

構成員：JAなのはな呉羽梨選果場、県富山・高岡農林振興センター、富山市、射水市、JAなのはな

背景・課題

当該地域は、富山県を代表する大型選果場を中心とした大規模日本なし産地である。近年、暖冬による発芽不良障害や開花期の凍霜害による結実不良から出荷量が著しく減少するなど激しい気候変動が生産に大きく影響を及ぼしており、安定生産技術の早期確立・普及が強く求められている。



みどり戦略実現に向けて

当産地では秋冬季に基肥として窒素施用を行っているが、冬期間の窒素流亡が懸念されることや発芽不良を助長している事例が散見されている。そのため、発芽不良障害対策として基肥施用時期を秋冬季から春季へ変更し、施用後の流亡減少・効率の良い養分吸収を通じた化学肥料使用量の低減を検証する。

また、ICT気温モニタリング装置を活用した防霜対策の実施により、作業時間削減を検証する。



環境負荷軽減の取組 ○化学肥料の使用量低減（現在の栽培体系からの更なる削減）

検討するグリーンな栽培体系

- ①化学肥料の使用量低減：春季の基肥施用
- ②省力化：ICT気温モニタリング装置を活用した防霜対策による作業時間削減

取組時期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
		受粉	摘果	新梢管理	収穫	せん定	棚付け					
	①	②										

①春季の基肥施用



② ICT気温モニタリング装置の活用による防霜対策



問い合わせ先

富山県富山農林振興センター TEL076-444-4523

白川町有機の里づくり協議会（岐阜県白川町）

構成員：白川町、JAめぐみの、NPO法人ゆうきハートネット

背景・課題

【課題1】有機農業の面積の拡大（新規就農者の確保等の取組が必要）

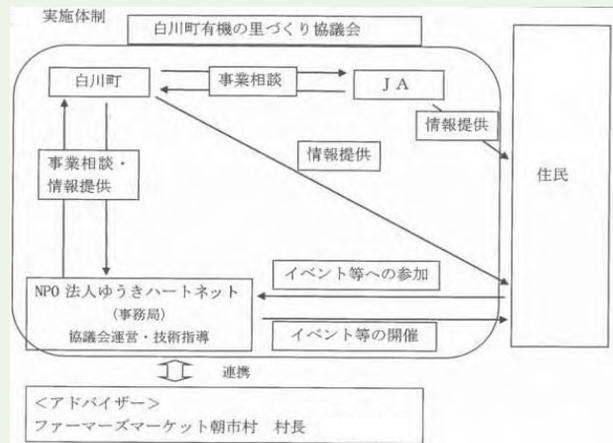
【課題2】農産物のロスの削減（集荷・配送等の流通方法の見直し、加工品の開発等の取組が必要）



位置図

みどり戦略実現に向けて

白川町の有機農業の取組は、NPO法人ゆうきハートネットが中心となり学校給食への食材導入やオーガニックファーマーズ朝市等の販売先の確立をしている。しかし、流通の効率化や加工品開発などについては十分であると言えない。このため、関係者からなる協議会を設置し、有機農産物の生産から流通・加工までを一貫して行える仕組みづくりを検討する。



成果目標

有機農産物の販売数量の拡大 5%以上増（R3：4,242kg）等

取組のポイント

- ①調達：町内の未利用有機質資材を活用した堆肥の生産体制の整備
- ②生産：有機農業の新規就農者の確保・育成
地域の営農組織と話し合いを行い、有機農業のあり方について検討
栽培技術向上のための勉強会、講演会等の開催
- ③加工・流通：給食センターや有機農産物販売業者等への集荷・配送等の流通システム構築
有機農産物を活用した加工品の試作品の開発
- ④消費：ブランド化に向けたキャッチコピーやロゴマークの作成



【NPO法人ゆうきハートネット】

【参考】白川町グリーンツーリズム協議会では、R4年度の農山漁村振興交付金を活用し、ワーケーション顧客の獲得に「有機農産物の産地」であることを強くアピールして取り組むこととしている。

取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	3か月に1回程度を目安に事業の進捗状況や有機農業実施計画の策定等について検討を行う											

問い合わせ先

白川町役場 農林課 農務係 TEL 0574-72-1311（内線272）

岐阜市だいこん部会協議会（岐阜県岐阜市）

構成員：則武鷺山園芸振興会、各地区だいこん部会、岐阜農林事務所農業普及課

背景・課題

春大根を年間約850トン、秋冬大根を年間約140トン出荷する本地域は、春大根の栽培にポリマルチを使用するため、使用後のポリマルチを廃プラスチックとして排出している。廃プラスチックの回収作業は手作業であり、高齢化が進む生産者にとって非常な重労働である。また、春大根、秋冬大根とも、土壌病害対策として土壌くん蒸剤を使用しているが、くん蒸材の揮発やくん蒸材散布後のマルチの伸張などの作業が危険かつ重労働となっている。

さらに、地域の混住化が進む中で、家畜由来堆肥の施用が困難になりつつあり、効率的に有機物を供給し地力を維持する体系が求められている。



位置図

みどり戦略実現に向けて

- ポリマルチを生分解性マルチに転換した栽培体系を検討し、石油由来資材の使用量削減とマルチ回収作業の省力化を図る。
- 土壌くん蒸剤を土壌混和剤に転換した土壌病害虫防除体系を検討し、土壌くん蒸剤の使用量削減と作業工程の省力化を図る。
- うね間に小麦リビングマルチを作付けする効率的な有機物の供給体系について地力維持効果と除草剤散布回数削減を検証し、導入促進を図る。



環境負荷軽減の取組

- 温室効果ガスの削減（廃ポリマルチ回収量（R3:31 t）の削減）
- 化学農薬の使用量低減（土壌くん蒸剤使用回数の削減（1回→0回））
- 除草剤使用量の低減（除草剤散布回数の削減（1回→0回））

検討するグリーンな栽培体系

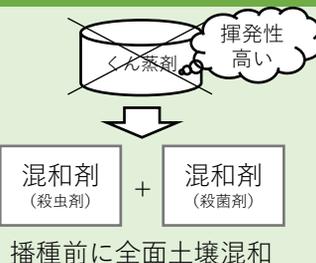
- ① 温室効果ガス削減及び省力化：生分解性マルチの導入（廃ポリマルチ回収作業時間の削減）
- ② 化学農薬の使用量低減及び省力化：土壌混和剤体系の導入（土壌くん蒸作業時間の削減）
- ③ 除草剤使用量低減及び省力化：小麦リビングマルチの導入（除草剤散布作業時間の削減）

取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	■								■			
②				■								
③	■							■				

①生分解性マルチの導入



②土壌混和剤体系の導入



③小麦リビングマルチの導入



問い合わせ先

岐阜市だいこん部会協議会事務局（則武鷺山園芸振興会）
電話・FAX 058-231-0406 メール73050@jagifu.gjadc.jp